

県立博物館・美術館で開催中の国展工芸沖縄展で、歴代作家の特別展示を担当した益子陶芸美術館（栃木県）学芸員の



松崎裕子さん。「沖縄との関わりを考えた」と陶器だけでなく、染や織、木工・

漆、ガラスなど21作家の68点を選んだ。益子を拠点に制作した濱田庄司の作品は9点。1939年に制作された「沖縄

レンズ

魚

眼
9/16

特別展 珠玉の68点を選出

「彩扁壺」や、トレードマークのサトウキビ文が描かれた「琉球窯赤絵茶碗」など作品名に琉球・沖縄が入ったものがあれば、「掛文打水差」は沖縄の按瓶に着想を得たものだという。「青釉格子描角皿」は沖縄というより、濱田の代表的な技法の「流描」が良い作品なので選んだ」と解説する。名品は1点ごとに展示ケースに収める。「焼き物はもともと立体。周囲を廻って見てほしい」